特集

盛岡市・都南村合併30周年、めざすのは、子どもたちが住みやすいまち。

盛岡市役所都南総合支所前にある合併記念碑。合併30周年は、未来の担い手たちに、何を継承していくのかを考える節目の年です。

令和４年は盛岡市と都南村の合併30周年にあたる年。人口４万３０００人の都南村を加え、都市基盤整備、福祉施設、公民館や都南図書館などの建設も進み、都南地域は盛岡市の南玄関口としての充実化を図ってきました。今回は改めて都南地域の特色、今までの歴史を振り返り、今後の広域都市・盛岡を考える機会にしたいと考えます。

盛岡市全域の経済活性化に寄与

盛岡市の南側に広がる都南地域。平成４年４月１日の合併以来、キャラホール・都南公民館、都南図書館、盛岡市南公園球技場、新・中央卸売市場が順次開設し、広域の発展を遂げてきました。また、国道46号盛岡西バイパス、開運橋飯岡線・向中野東仙北線開通、都市・生活基盤等の整備、宅地開発が進み、盛岡市全域の経済活性化に大きく寄与した30年であったといえます。

長く地域を見守ってきた都南地域運営協議会会長・髙橋善躬さんに、めざましい発展の背景について伺います。

「振り返れば、岩手国体が行われた昭和45年ごろから合併の話は持ち上がっており、全国的にみてもずいぶん時間がかかった末の合併でした。平成４年の合併当時、村の人口は４万３０００人を超えており、長年に渡って水の供給課題を抱えていたのです。合併を機に、土地区画整理、下水道整備が飛躍的に進み、商業施設や文化施設が整備されましたが、これは都南地区だけの価値向上ではなく、盛岡広域のまちづくりにおいて、大きな成果を果たしたと思います」。

盛岡市の南側開発に加え、北側の発展にも期待をよせる髙橋さん。

そもそも都南村は、盛岡市と合併する以前の昭和30年、飯岡村、見前村、乙部村が合併して誕生しました。国道４号近郊の見前地区を中心に商工業が発展し人口が増えていくと、その両側に位置する飯岡地区や乙部地区でつくられる米や野菜の需要も高まっていきました。今や、一次産業をはじめ、商業や学校、文化施設まで全て揃った都南地域であると髙橋さんも自負します。

遺跡が明らかにする太古からの文化を持つ土地

一方で、都南地域は縄文時代の遺跡が数多く発見される歴史ある土地。中でも、昭和59年に手代森小学校付近の発掘調査にて発見された「遮光器土偶」は、国の重要文化財に指定されています。そうした土地の文化や価値を住民に知ってもらうべく、さまざまな取り組みをしてきたのが、同協議会幹事・長澤寿八さんです。

手代森遺跡から出土した遮光器土偶のレプリカ。実物は国の文化庁にありますが、レプリカは岩手県立博物館などに展示されています。

「大型でほぼ完全な形状で見つかる遮光器土偶は全国的にも珍しく、地域の宝として大切にされてきました。土偶が掘り起こされたのは、大ヶ生（おおがゆう）に近い大沢川の河川改修工事の時でした。この一帯は北上川から鮭が遡上し、古くから栄えた集落で、神楽も継承され、金山もあった。そんな豊かな文化が残る地区ながら、過疎化が大きな課題でした。そこで地元の賑わいづくりになればと縄文祭りをはじめたんです」。

地域に深く関わり、都南の文化を伝える活動を続ける長澤さん。

長澤さんは、「大ヶ生金山の里縄文祭り」を20年にわたって運営し、地域を盛り上げてきました。数年前からは、手代森小学校の新一年生に遮光器土偶をモチーフにしたTシャツを寄贈。都南村合併30周年にあたる今年は、同小学校前に遮光器土偶の説明板を設置するなど、郷土に息づく歴史や文化を子どもたちに伝える活動を継続しています。発掘された土偶はおよそ３０００年前のもの。はるか過去から今へ続く歴史は、都南地域の貴重な宝物なのです。

いよいよ飯岡駅の自由通路開通へ

また、都南地域運営協議会では地区における利便性向上のため、ＪＲ岩手飯岡駅の東西自由通路設置について長い間要望活動に取り組んできました。その成果が実を結び、令和２年に東西自由通路・橋上駅舎の新設工事が決定。今年の冬には工事が終わる予定です。新たに東西自由通路ができることで、東口駅前広場と西口駅前広場が連結。盛岡側に鉄骨２階建の橋上駅舎を新設し、エレベータ２基、多機能トイレなどバリアフリー設備が整います。

「岩手飯岡駅の利用者は、１日に約２０００人前後。駅の整備に伴って周辺の開発も進み、人口も増えています。都南地区の経済力も上がっていくであろうと予想されます」と髙橋さん。

同駅は、いわぎんスタジアム（南公園球技場）まで徒歩10分。その隣では、いわて盛岡ボールパーク（新・岩手県営野球場）の建設が進み、大型のスポーツ大会やイベントによる集客も期待されるところです。

「盛岡市南側は学校も多いエリア。都市開発は、子ども、孫世代までの構想を見据え、自分のことだけでなく、広域住民のために考える思想が必要になってくるでしょう」と、次世代に寄り添う開発を願う髙橋さんと長澤さん。

10月10日には、合併30周年記念事業「大好き盛岡・となん30th」が開催される他、毎年８月に行われていた「盛岡花火の祭典」を、30周年祝賀イベントとして実施する予定です。「打ち上げ規模は縮小されますが、ライブ配信によって自宅でも楽しめる企画内容になっています」と髙橋さん。

合併30周年を迎える今、先人が夢を持って取り組んだ平成４年の原点に立ち返って、将来に向かって急ぎすぎず、全方位を見ながら、改めて一歩を歩む節目にしたいと二人は話します。

建設が進む、JR岩手飯岡駅の駅舎。